

☆学習指導

- ・「困ったときや分からないときにペアやグループの友だちにたずねることができる」「友達の話をしっかり聴くことができる」と回答した児童が95%を超え、その中でも「よくできている」と回答した児童の割合が昨年度より増えました。今年度は感染症対策のために、これまでのようなペア学習やグループ学習が困難となりましたが、保護者の皆様の理解・協力を得て、全学年の試行錯誤と統一した学び合いの取組によって、「聴き合うこと」が本校の児童に「学びのルール」として身につけてきたことが確認できました。今後はこの「学びのルール」の基で、児童の主體的に学びに向かう態度を一層育てていくために、魅力ある課題の設定と自己の学びの振り返りに重点をおいて取り組んでいきます。
- ・読書については、「意欲的に読書に取り組んでいる」と回答した児童が77%と昨年度に引き続き減少しました。保護者の評価は約50%に留まっています。学校では、読書への興味関心を高めるために、学期ごとに「読書週間」「図書館祭り」「朝読」の期間を設け、今年度から図書館司書による本の紹介コーナーを昇降口に作りました。また、コロナ禍で「読み聞かせ」は実施し難い状況でしたが、アクリル板やプロジェクターを使い「学習支援員による読み聞かせ」を10月から各学年で再開しました。図書館ボランティアの皆様にも2学期から読書環境整備をお願いします。読書離れの背景には、児童を取り巻く環境の変化が考えられますが、今後も家庭と連携し、地域の方々の力を借りながら読書の魅力を子どもたちに伝えていきたいと考えています。

☆生活指導・心の教育

- ・「学校に楽しく通えている」との回答が保護者や児童ともに95%を超え、「とても楽しい」と回答した児童の割合が増えました。また、95%の児童が「自分にはよいところがある」と回答し、ほぼ全児童が「いじめはいけない」「友だちの嫌がることをしないで仲良くできている」と回答しました。今後も、一人一人を認め合う仲間づくりを継続していきます。そして、学校における児童観察と保護者との連携を大切に、いじめアンケートやQU調査を活用した子どもの困り感の早期・発見早期解決に努めていきます。
- ・98%の児童が「身近に相談のできる人がいる」と回答していますが、保護者アンケートでは「毎日子どもと学校の話をしている」との問いに「あまりそう思わない」「そう思わない」の回答が高学年で増えました。保護者は学校教育へ高い関心をもっている反面で思春期にさしかかった子どもとのコミュニケーションに難しさを感じています。また、高学年を対象としたアンケートで将来の夢や目標を持っている児童の割合が減少しました。コロナ禍において社会的な不安が背景にあるのかもしれませんが、スクールカウンセラーの活用等、教育相談体制の充実を図り、夢や希望に繋がる体験的な学びを地域と連携し進めます。
- ・今年度も、「あいさつ標語」や児童会が中心となったあいさつ運動に取り組み、児童のあいさつへの意識を高めてきました。このような継続した取り組みによって年々挨拶ができる児童の割合が増えています。今後も、身近にいる私たち大人から進んで挨拶をすることで、進んであいさつすることの値打ちを伝え、あいさつする習慣を身につけさせていきたいと考えています。

☆健康・安全指導

- ・業間休みには教員も外へ出て子どもたちと遊ぶように努めてきた結果、進んで外で遊ぶ児童の割合が増えていました。今後は、休み時間の過ごし方につながる体育の授業や外で遊びたい環境づくりを地域の力も借りながら進めていきます。
- ・96%の児童が「自分の身を守るために必要な学習を行っている」と回答しました。特に安全教育では、地域の方からの声を保護者と共有し、実態把握と改善に努めました。しかし、コロナ禍で生活習慣を崩してしまう児童も少なくありませんでした。規則正しい生活習慣の定着を目指して家庭と連携した健康指導と保険だよりによる啓発、情報発信を継続・推進していきます。